

中国地区会 10 年間(2007-2016 年度)の活動

佐藤 園 (岡山大学)

日本家庭科教育学会中国地区会は、1981 (昭和 56) 年 2 月に発会行事が行われ、同年 8 月に第 1 回研究発表会・総会・講演会を実施し、名実共に発足した。その後、年に一度、中国地区 5 県の持ち回りで総会・研究発表会とシンポジウム・講演会・授業実践報告会等を開催し、年度末の 3 月には会報の発行、また、規約に従い二年に一度、役員等の改選を行う活動を積み重ね、2010 (平成 22) 年には、発足から 30 周年を迎えることとなった。以下、2007～2016 (平成 19～29) 年度の本地区会の活動について報告したい。

	(山口) 福田 恵子 (岡山)	(広島) 福田恵子※ (鳥取)	(岡山) 福田 恵子 (鳥取)	(山口) 福田恵子 (鳥取)
会計 監査	井上富美子 (鳥根) 杉本真由美 (鳥取)	佐藤 園 (岡山) 井上富美子 (鳥根)	西 敦子 (山口) 鳥井 葉子 (広島)	丸橋 静香 (鳥根) 中村喜久江 (広島)
庶 務	石田 浩子 (広島)	船田敦子 (山口)	福田 恵子 (鳥取)	篠原 陽子 (岡山)
会 計	望月てる代 (広島)	西 敦子 (山口)	丸橋 静香 (鳥根)	篠原 陽子 (岡山)

(※は地区代表者)

I. 組織とその運営

1. 会員数

この 2007 年度からの会員数は、以下のようになっている。2010 年度には会員が 100 名を越え、小・中・高等学校、大学で家庭科教育に携わる者が家庭科教育の実践・研究を行っている。

	鳥取県	広島県	岡山県	鳥根県	山口県	計(名)
2007	6	30	18	23	13	90
2008	6	30	18	23	13	89
2009	8	34	22	23	12	99
2010	10	45	22	24	13	114
2011	6	49	18	27	17	117
2012	5	47	12	21	15	100
2013	6	47	12	22	15	102
2014	4	54	13	23	15	109
2015	5	50	10	24	14	103

2. 役割分担

本地区会では、2年に一度、各県から代表役員を選出し、5県の代表役員の合議の下、以下のように役割分担を行い、地区会及び家庭科教育学会の活動を行ってきた。

	2009-10	2011-12	2013-14	2015-16
会長※	伊藤 圭子 (広島)	入江 和夫 (山口)	多々納道子 (鳥根)	佐藤 園 (岡山)
副会長	西 敦子※	鳥井 葉子	佐藤 園※	西 敦子※

II. 研究活動

1. 研究発表会

本地区会では、各県 1 件を原則として研究発表会を行っている。2007 年度以降の研究発表のテーマを学校種で分類すると以下のようになる。

	小学校	中学校	高 校	大 学	その他	計(件)
2007	1		1	1	1	4
2008		2	1		2	5
2009	2	2		1		5
2010	2	1		2		5
2011	2		1	1		4
2012		1	2	1	1	5
2013	1	1	2	1		5
2014	4	2	3	2	1	12
2015	2			1	1	4
2016	1	1	1		1	4

(2014 年度は、地区会研究発表会を全国大会研究発表と兼ねた)

2. 実践報告

地区会会報では、各県持ち回りで「学校現場から」の報告を掲載している。以下は、2017 年以降の報告である。

2007	家庭生活経営力を身につけた生徒の経営を目指して／岡山大学教育学部附属中学校 小橋和子・原田省吾
------	---

2008	互いの見方・考え方を共有する活動を通して生活観を更新していく子どもを育てる授業と題材構成／山口大学教育学部附属光中学校 今井陽子
2009	生活実践力の育成をめざし自立と共生の視点に基づいた家庭科の学習／広島大学附属三原中学校 藤井志保
2010	小学校低学年からの家庭科授業実践／岡山県吉備中央帳大和小学校 信清亜希子
2011	問題解決能力と仲間意識を育てる実践的な問題解決学習への取り組み／鳥取県立米子東高等学校 後藤真理
2012	研究を通しての成長「高等学校家庭科で市民性を培う取り組みについて」／島根県立宍道高等学校 錦織教子
2013	小学校低学年における家庭科学習の意義／岡山大学教育学部附属小学校 信清亜希子
2014	高等学校家庭科専門教育について考えること／広島県立吉田高等学校 京極周子
2015	仲間とのかかわりで自らの生活を見つめ直す家庭科学習／山口大学教育学部附属山口小学校 古庄又

	鶴田敦子先生（東京学芸大学特任教授）
2013	講演：パフォーマンス評価の考え方と進め方 西岡加名恵先生（京都大学大学院教育学研究科）
2014	ラウンドテーブル：生きる力をそなえた子どもたち—それは家庭科から RT1：家庭科で家族をどう教えるか／竹吉昭人（島根大学附属小学校）・藤井志保（広島大学附属三原中学校）・宮里智恵（くらしき作陽大学） RT2：生活実践力を育成する家庭科の授業開発／篠田希美（山口大学附属光小学校）・児玉智美（広島県大竹高等学校）・西敦子（山口大学） RT3：ESDとしての家庭科教育の可能性と役割／信清亜希子（岡山大学教育学部附属小学校）・奥村直美（鳥取大学附属小学校）・福田恵子（鳥取大学）
2015	講演：人とかかわるおもちゃ 多田千尋氏（東京おもちゃ美術館館長）
2016	基調講演：ディープ・アクティブラーニングの提案 松下佳代先生（京都大学高等教育研究開発推進センター）

3. 講演・シンポジウム

2007年度以降には、以下の講演・シンポジウム等を開催し、地区会員のみならず、中国地区の家庭科教育関係者に無料で公開してきた。2014年度には、日本家庭科教育学会理事会との共催で第57回日本家庭科教育学会岡山大会を開催し、中国地区会としてラウンドテーブルを企画・運営した。

2007	講演：家庭科教育の使命と生活世界 福田公子先生（広島大学名誉教授）
2008	講演：新学習指導要領とこれからの家庭科 岡陽子先生（文部科学省初等中等教育局教育課程教科調査官・国立教育政策研究所教育課程センター研究開発部教育課程調査官）
2009	講演：健康で安全な住環境と環境に配慮した生活行動 高田宏先生（広島大学大学院教育学研究科講師）
2010	講演：民家（伝統的住まい）に学ぶ 富士田亮子先生（岡山大学大学院教育学研究科教授）
2011	講演：家族の絆の光と影 播磨敏子先生（福山市立大学教育学部教授）
2012	講演：「モノ」から「ひと・もの」中心の社会・学校へ—家庭科関係者の課題を考える—

4. 共同研究

本地区会では、発足当初から「地区として特色ある共同研究をすること」が話し合われ、1985年8月に開催された第5回地区会において、独自の共同研究を行うことが決定されている。それ以後、今日まで、本地区会では、各県持ち回りで共同研究代表（取りまとめ役）を決め、3年間を期間とする研究を進め、その成果を報告書や書籍としてまとめ、全国の家庭科教育関係者に発信してきた。2007年度以降の共同研究は以下の通りである。

2007	「開かれた個」を育成する家庭科カリキュラム開発と授業研究（『いきいき家庭科』教育図書、2010） 食生活の授業：小学校3、中学校2、高等学校1、小・中・高等学校1／衣生活の授業：中学校1、高等学校2、大学1／家族・保育・消費生活の授業：小・中学校1、中学校1、高等学校1、大学1 計15件
2011	生活実践力を育成する家庭科の授業開発 【研究部門】小学校6、中学校4、高等学校7 計17件 【教材紹介部門】小学校4、中学校2 計6件
2015	アクティブラーニングを活かした家庭科の授業開発

2015年度から取り組んでいる共同研究の成果は、

2017年6月に書籍（教育図書）としてまとめ、全国大会で販売する予定である。今後も、小・中・高等学校、大学及び行政等の家庭科教育関係者と協働し、中国地区として特色ある共同研究を推進し、新しい家庭科教育の理論と実践を全国に向けて発信し続けていきたい。